

2学期終業式 講話 ■令和2年12月25日
「けじめ」

2学期終業式のお話をします。

長かった2学期もとうとう終わろうとしています。何日あったか知っていますか？84日間ありました。なんだか終わってみたら短かったなあと校長先生は思いました。

さて、2学期が終わるということは、今年令和2年ももう終わりです。そこで、きょうはけじめをつけましょうというお話をします。

「けじめ」ってわかりますか？区別をはつきりつけること、責任をとるという意味のことばです。そこで、こんなことわざがあります。「1年の計は元旦にあり、1年のけじめは大晦日にあり」

意味は、1年のはじめに今年の目標をたてましょう、そして大晦日には1年の反省をしましょうという意味です。もう少し詳しく言うと、今年は今年、来年は来年と、嫌なことなどをいつまでも

うじうじと引きずるのではなく、12月31日でいったん忘れて、1月1日には新しい気持ちでがんばっていきましょうということです。

今年は本当に色々なことがありました。校長先生も先生を30年間やってきましたが、臨時休校などはじめてのことばかりで、皆さんも大変な思いをしてきたと思います。

来年こそはコロナもおさまって、今までどおりの学校生活ができればいいなあと強く願っています。きっちりけじめをつけて、いい令和3年をむかえることができたらなあと思います。

冬休みは短いです。でも、大晦日やお正月など大きな行事がたくさんあって、事故やケガが起こりやすい休みもあります。この間もお話ししましたが、この冬休み安全や健康には十分注意して過ごしてください。そして、1月7日の3学期始業式には全員が笑顔で登校できますよう祈っています。それではみなさん、良いお年をお迎えください。